

品川支部

令和三年年12月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel 3442-7075

12月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

丑年も後ひと月 来年は寅年

二年にわたり新型のコロナウィルスで、殆どのイベントが中止になりましたが、後ひと月で頼もしい虎の年となります 来年に向け、今月は是非この病禍が沈静している状況を進めて行きたいものです

本部でも来年以降を見据えて、節目の創設九十年を迎える「全教一斉ひのきしんデイ」を契機に五年後に控えます教祖百四十年祭に又、十五年後の百五十年祭と次の立教二百年を目指しての活発な活動をとお示し頂いております そろそろエンジンを掛ける準備を致しましょう



11月月次祭西礼拝殿前広場参拝風景
登殿参拝の許容人数も倍になり東西南北広場の参拝者も多くなりました

☆支部行事のお知らせ

・支部例会十二月二十一日(二頁参照)

・十二月は例年日本橋大教会での忘年会を兼ねた昼食を用意して頂いておりますが今回は状況下、弁当の配布にさせていただきます

・在宅センターひのきしんと神名流し

・本格的には年明けか等を考えています

・教区ひのきしん
担当は日本橋組です。今月は五日と大掃除九日の二回ですが無理の無い様にお願ひします尚、不参加の場合は教区に連絡願ひます

・幹事会
九日、櫻京分教会にて六時から

☆教務支庁からのお知らせ

・二月お運びの教会は

一月お運びの教会は年末の為、教区視察が十五日の受付までになりますので願書の提出を早めにお願ひ致します。

・本部大祭時等の教会名の提灯献灯がなくなります
本部からのお話では、大祭等に行われていた、全国各教会の名前が入った提灯の献灯が来年の教祖誕生祭をもって、終了させるとの事です。
これは各大教会、又は直属毎に所定の場所に設置して励みになっておりましたが、負担も大きくなり一つの役目が終わった事になります

・永年、無担任教会等の整理統合

近年、永く無担任等教会の整理・統合が積極的になされ、実質的な活動に支障をきたさない様になってきました。

それに伴い、教会建物土地の整理を希望される方と、東京で教会土地等を手入れしたい方との金額を含めたマッチングのための情報を教区教務部で扱うことになりました。
ご希望の方は是非お問い合わせ下さい

・天理婚活サポート

従来、東京教区等での婚活サポートが多く教区で指示され全国規模ネット本部布教部の後援の基、法人として行われることになり、一層の期待が持てるようになりました。
support-member@tenri-ennus.com 迄

・一口知識 来年のとら年

寅年は、西暦を十二で割って六余年年で巡ってきます。来年は壬寅(みずのえとら)にあたり、色々な性格がある虎の中でも優しい虎(乳虎、母虎)になるのだそうです。

コロナで明け暮れたこの二年、活動にも心にも余裕がなかった様に思えますが、来年の強く優しい虎に期待して気持ちにゆとりある年になりますよう。又、支部活動の上にも来年も宜しくお願ひ致します。



時報手配り十二月予定

元旦号は直送となります

拠点教会	1日号	8日号	15日号	22日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り
本 荏	直 送	手配り	手配り	手配り
南 泰	直 送	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り

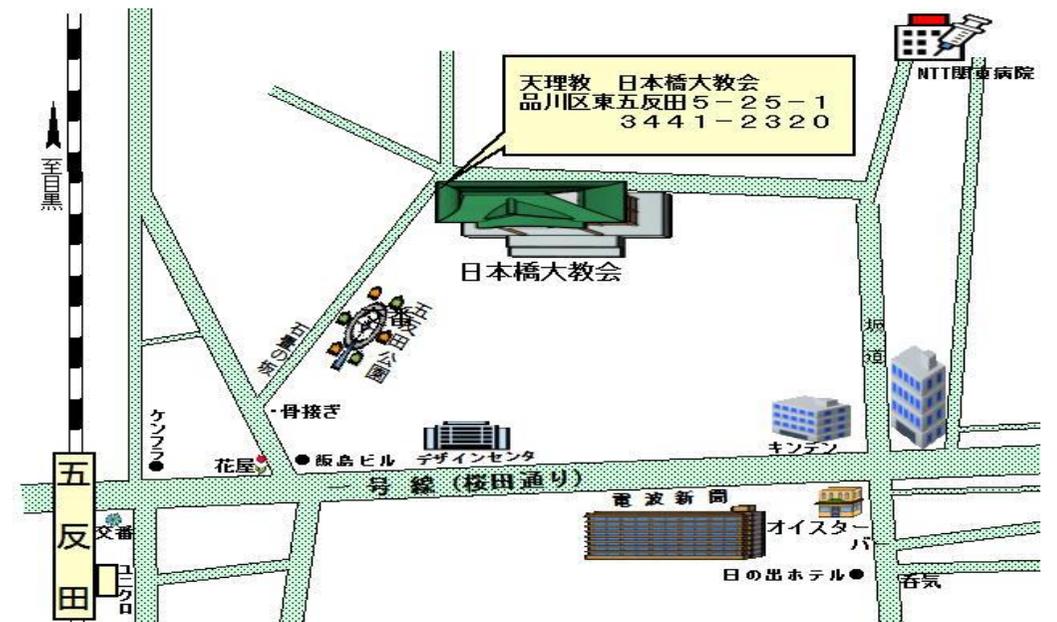
品川支部例会

令和三年12月21日 (火) 場所 日本橋大教会

(品川区東五反田5-25-1)

内容 座りづとめ よろづよ 十二下目 東京教区、支部連絡事項 当該 中臺大教会長挨拶 昼食は弁当を用意させていただきます

* 支部内教友の方対象 (白足袋ハッピー着用)



コロナ禍での想い



日本橋大教会長

今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルスに悩まされる一年になりました。こどもおちばがえりを始め、大きな行事は軒並み中止になりました。祭典の参拝を制限した教会も多かったのではないかと思います。しかしこれも親神様のなさることでもあります。親神様の思召はどこにあるのか。私なりの思案を綴らせて頂きましたと思います。

大勢で集まらない、人と思つように会えない状況が続いていますが、寂しく心細い状況から、人との繋がり大切さを実感している人は多いのではないのでしょうか。一人でじっとしていても気持ち暗くなるばかりであります。こうした中、私は、何か思うことがあったら人に電話をかけるようになりました。

すると、ちょっとしたお礼にかけたとしても、そこからおたすけの話になることもあるのです。行事等で人が多く、賑やかで楽しい半面、話の内容は、さほど深くならないことが多いように思います。一人の人に耳を傾けると、実際にその人が考えていること、悩んでいることなどがわかります。このコロナ禍で、あらためて一人ひとりへの繋ぎの大切さを実感しており、それが今親神様が私達に望まれていることではないかと思っております。また、手紙を書くのも良いことです。コロナになってから私は、直轄の信者さんに色々な変更事項を知らせる必要から、手紙を書くようになりましたが、普段来られていない方にも連絡しようと、教会報を添えて、名簿にある信者さん皆さんに出すようにしました。しかし、知らない内に住所が変わっていたり、お出直しされていた方もおられ、また、今は信仰をしていないということでしょうか、受け取らない方もいて、戻ってきた手紙が結構ありました。

ショックを受けると共に、繋ぎが不十分であったことを痛感しました。それから、引越し先の住所を聞いたり、名簿にはなかった信者さんの情報をもったり、家庭から独立されたお子さんの住所を教えてもらったりして、徐々に発送軒数を増やしていきましました。また、コロナ以前から、特に若い人は忙しくて、疎遠になってしまっていることが多々ありまして、だからこそ手紙を届けようと思ひ、直接送れない人には親御さんから郵送してもらおうようにもしました。今は教会に対して気持ち冷めてしまっていたとしても、こうして信者さんに心を込めた手紙を送り温めていくことが、必ず良い方向に繋がっていくと信じて続けていくつもりです。これもコロナ禍で教えて頂いた大切なことです。教会長目録の話にどうしても、今は繋ぎを大切にすることを大切に頂いているのだと思います。

もう一つ今親神様が促しされていると思うのが、おつとめを勤めることです。信者なら本来毎日感謝のおつとめを勤めるべきところでありますが、できていない人もいます。度々お道の行事に参加していると、ついそれいいように思ってしまうところがあるのかもしれないので、おつとめの大切さを浮き彫りにして下さっているのではないかと思います。今こそおつとめの大切さを伝える旬ではないかと思ひます。つたない話になりましたが、今のふしで思ひますところを綴らせて頂きました。

中臺健児

